

第22回「議員と語りかい」報告書

始良地区歯科医師会 (No.1)

開催日	平成29年 2月 2日 (木) 19時30分 ~ 21時00分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	始良地区歯科医師会 霧島市支部	参加人員	13人 (男13人:女0人)
出席議員	前島 広紀、平原 志保、新橋 実、常盤 信一、岡村 一二三、池田 守 今吉 歳晴、宮内 博		
役割分担	班 長 (前島 広紀) 副班長 (平原 志保) 記録係 (宮内 博)		
テーマ及び具 体的な内容	霧島市の歯科保健について ・小中高における歯科保健について		
感想	語りかいの開催時間が午後7時30分、午後9時閉会という時間的制約から余裕がなく十分な意見交換はできなかったが、歯科医師会としてフッ化物洗口に臨む基本姿勢を拝聴できる機会になった。		
反省点	時間的余裕を持った意見交換ができる工夫が必要ではなかったか。		
次回に向けて の改善点	庁舎(議会棟)を利用するときの庁舎の閉館時間(21:00)と、駐車場の閉鎖時間(21:20)に留意した開会・閉会時間設定を考慮する必要がある。		

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

☆始良地区歯科医師会会長 奥先生より

始良地区歯科医師会は、霧島、始良、湧水で101人の会員で構成。溝辺町に本部を置いている。歯科医師会として口腔ケアとガン、虫歯と糖尿病問題などでは医療機関との連携を進めている。歯科医師も訪問ケアにも出かけているとの趣旨説明があった。その後、宮川先生から、パワーポイントによりフッ化物洗口が学齢期の虫歯予防に役立つことやその効果などを示す内容の説明を受けた。

◇歯の治療を受けていない子どもに歯科医師会としてどのような対策がなされているか。

◆健康格差、経済格差によって治療に来ることができない家族を見受ける。治療を受けたことを証明するに至らない方もいる。学校検診後の事後処置として治療をしていただくよう勧めている。その後は、家庭による対応となる。

◇歯の矯正をする子どもへの対応は。

◆矯正治療には「開口ができない」や「顎の位置がずれている」等がある。歯並びなど見た目が悪い子どもの治療は、各医院で対応している。治療の時期なども含めて歯科医院に相談してほしい。

◇矯正の金額は。

◆自由診療で行われている。

◇子どもの噛む力をつけるための工夫は。

◆学校保健委員会で取り組んでいる。その場で、指導助言している。

◆年に一回、噛むメニューを揃えた学ぶ機会がある。そのような場も指導する機会となっている。

◇子どもたちは顎が細いという問題があると聞く。そういう場合の対応策は。

◆よく噛んでいないから歯並びが悪いということはある。しっかりと噛む習慣を身につけることが大事だと考えている。

◆親の教育は大きいと考えている。

◇子どもの矯正は多くなっているか。

◆少子化もあると思うが、子どもたちには最高のことをしたいという思いの親もいる。虫歯で、子どもの時に神経を抜いている子もいる。そういう方に、支援することが私たちの役割だ。

◇フッ化物洗口で虫歯のない人が多くなれば、歯科医師も経済的に困ると思うが。

◆新潟県はフッ化物洗口の先進県だが、ここで歯科医師が廃業しているという報告はない。

◆虫歯のない人を見ると嬉しくなる。訪問診療では、虫歯治療より機能回復を重視している。歯がなくて食べるできない高齢者への対策も行っている。魚や肉を食べるよう指導している。

意見交換での主な意見等

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な意見等

- ◆摂食援助障害などは、飲み込む筋肉が落ちていることが原因。その力をつける指導を実施している。
- ◇鹿児島県の虫歯保有率は全国平均より多いとの報告がある。フッ化物洗口の県内の実施状況は。
- ◆行政が主体で実施しているのは薩摩川内市で、全ての小学校で実施している。さつま町も進んでいる。3番目が霧島市だ。鹿屋市が来年4月から始める。
- ◇ガイドラインで示す保護者などへの説明責任は。
- ◆霧島市でも説明をすることを重視するようにしている。1時間から1時間半の時間で実施している。県が作成したDVDなども活用している。
- ◇薩摩川内市でのフッ化物洗口濃度についてどのように思うか。
- ◆霧島市では、国のガイドラインを重視するように要請している。
- ◇安全性については、県と厚生労働省では見解が違う。市は、大量に飲み込んだときのリスクを説明しない。歯科医師会の方は、全量飲み込んだことがあるか。保護者や教職員には不安がある。
- ◆飲んでいるのかということだが、あえてやる必要があるのかと思う。我々は学術団体であり、そのようなことはやらない。学校現場でやる場合、もっとも安全な方法をお願いしている。
- ◇英文の論文を届けるよう要請しているが届いているか。
- ◆掛井先生の論文は読ませて頂いた。EBMは根拠に基づき実施するもの。動物実験のデータではなく、疫学研究で出ているもので実施する。
- ◇歯の治療を受けていない子どもへの今後のあり方についての考えは。
- ◆歯科医師が気づけば、密に連携できるのではないかと思う。
- ◆昨年、1例だけ気づき先生に対応を要請した。「ご飯は食べているようだ」との報告だった。
- ◆気がついたときは、学校検診などで連絡している。
- ◇家庭で虐待されている子どもにも虫歯が多いとのことだが、霧島市の実態はどうか。
- ◆各学校の数値はわからない。個人情報との関係もある。データを提供していただければ、より細かい提言ができると思う。
- ◇学校へ話をしに行くことはできないか。
- ◆保健委員会等と言うことは可能だ。2才児歯科検診時に歯科医のコメントを書く部分がある。研修会等で密に連携をとる必要がある。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇学校、家庭、地域の連携をすることが大事だと思う。我々がやることがあれば意見を言って欲しい。

◆学校での虫歯はゼロではない。何ができるかといえば、フッ化物洗口がある。やるからには、同意を取ったうえで実施している。とにかく虫歯をゼロにしたい。8020運動もある。虫歯を減らすではなくゼロにしたい。

◇議会でも議論がある。子どもたちの虫歯がない取り組みをやりたい。

◇WHO勧告では、6歳未満の子どもに用いるべきではないとされているが。

◆安全性については、口腔専門家の先生が訳している。

意見交換での主な意見等